森の学校だより

ろうきん
森の学校

ろうきん森の学校　2018年度 活動報告

interview / Niigata

暮らしとのつながりを体感できる森づくり活動を

14 / 20

2005-2024　労働金庫連合会 × NPOの20年にわたる環境教育

福島地区

森の中に子ども達の居場所を作ろう

いわきの森に親しむ会
木田 理事長

2018年度から湯ノ岳山荘の北側に「子どもたちの自然体験活動フィールド」を計画し、2019年度から本格的な整備を会員の協力により始めました。完成後は森の中から子どもたちの歓声が聞こえることを楽しみにしています。

自然体験活動

毎月第３日曜日に開催している「ろうきん森の学校」では、毎回テーマに沿った自然観察会の後に親子木工クラフトを実施しています。

作業機械取扱研修会支援

当施設において県林材業労災防止協会などが、年４回実施しているチェーンソーと刈払機の取り扱い研修会の支援を行い実技指導をしています。

ろうきん × FUKUSHIMA

連合会新入職員研修

4月20日に労金連合会新入職員研修が福島地区で行われ、カエデの植樹体験をしました。初体験者がほとんどで、とてもよい経験ができたとの感想がありました。

＼福島地区の／

オススメ体験

森の自然体験活動

湯ノ岳フィールド内の食べられる野草を見つけて野草の料理方法を学びます。

リーダー養成のためのスキルアップ研修

専門講師による２日間の自然案内人養成講座を予定しています。

森林整備活動

2018年度より取り組んできた、子どもたちの遊び場作りを2019年度に整備完了する予定です。

Column

「みどりの日」自然環境功労者として環境大臣から表彰される

去る4月11日に環境省は、自然環境の保全に関する顕著な功績があった個人・団体を表彰し讃える平成31年度自然環境功労者環境大臣表彰の表彰者を公表しましたが、このなかで当会も自然ふれあい部門に選ばれました。

平成13年の設立以降、自然観察会の開催や、市内の幼稚園や小学校における木工クラフト、生活科や総合学習における野外活動等森林保全・自然環境保全に係る環境教育活動（学校支援活動）を実施するなど、自然とのふれあい及び普及啓発活動に尽力したことが受賞理由です。

4月17日に環境省で授賞式があり、木田理事長が出席しました。

環境省での授賞式の様子

富士山地区

ろうきん森の学校を地域の財産に！

ホールアース研究所
山崎 代表理事

森林整備に限らず、ジビエ、農業、木材利用、森の魅力を五感で味わうリラックス・ランなど、様々な切り口で森づくりに取り組んでいます。地域性の高いプログラムも多く、各活動が地域の財産となるよう奮闘しています。

田貫湖秋祭り「竹と鹿と、ときどき森」

ジビエや有機野菜を使ったワークショップの実施や、間伐竹ブランコの設置に加え、ろうきんの森を「森エリア」として活用し大勢の方にご参加いただきました。

施設整備を介した若手向け実地研修

大規模なテントデッキの改修や、屋根付き木造施設の解体を通して、ベテランスタッフから若手スタッフへの施設整備技術の伝承を行いました。

ろうきん × FUJISAN

富士宮地区労福協 猪之頭満喫プログラム

猪之頭地域を舞台に、その恵みを満喫するプログラムを会員の家族向けに実施。マスのつかみ取りや猪之頭ガイドウォーク、そば打ち体験などを行いました。

＼富士山地区の／ オススメ体験

里山つなぎ隊

ボランティアグループによる、森林整備を通じた地域づくりのお手伝いを行っています。

秋のイベント

里山での古く新しい生き方をゲストと再発見・模索し、パートナー作りに取り組みます。

森林体験プログラム

森林の中で五感を高める、リラックス・ラン・プログラムを実施します。

Column

2019年度に、新たに取り組むこと。

森づくりという文脈で、様々な切り口から新たな挑戦を続けています。2017年度末に設立した「富士山麓ジビエ」では、山に捨てられることの多い野生鳥獣の引取りと解体・精肉を行い、2018年度には80頭超の引受けを達成しました。ジビエはウェブサイト上で一般の方も購入できる形になっています。また、間伐材利用においては、薪やデッキ杭などの限られた用途にのみ活用していた材を、製材所と連携してデッキ材として加工し、施設整備に活かせるよう検討を進めています。施設整備に限らず、旋盤を使った木工製品づくりにも挑戦しています。「森づくり」という言葉には様々な活動が含まれますが、広く一般の方にも届けられるような形・発信方法を引き続き模索していきたいと考えています。

2017年度末に設立した「富士山麓ジビエ」

岐阜地区

森の恵みを活用した豊かな暮らしを提案

NPO 法人
グリーンウッドワーク協会
小野 理事長

市内にある小学校の廃校を利用したものづくり拠点施設「みの木工工房 FUKUBE」がオープンしました。豊かな森林資源の活用と情報発信の拠点として整備していきます。

森工塾 木の動物づくりin美濃

動物の痕跡を探して森を歩いた後、動物たちの姿を思い浮かべながら、ドイツに古くから伝わる木工技法を使った動物の玩具づくりを行いました。

小原かごづくり研修

木を薄く割ってかごを編む「小原かご」の技術を学ぶ研修会を滋賀で開催しました。失われつつある伝統的な技術を普及するための活動を進めていきます。

ろうきん × GIFU

総合事務センターでの職員・家族向け体験会

親子向けに小枝の色えんぴつと小さなお家づくりを体験してもらいました。お家の他にもビルや新幹線などが並んで賑やかな街が出来上がりました。

＼ 岐阜地区の ／ オススメ体験

足踏みろくろで木の器づくり

器を挽くための新型足踏みろくろを設置し、器づくりの講座をより充実させます。

竹ひごからつくる竹細工講座

竹林の有効利用の手段のひとつとして、暮らしに使える竹かごを編む技術を学びます。

子ども向けものづくり講座
小中学生を対象としたもの

削り馬にまたがって、銑（せん）という刃物を使い、クリスマスツリーをつくります。

Column

みの木工工房FUKUBEがオープン！

2017年度は森の工房の完成により、森林空間を利用したプログラムの充実を図ることができました。そして2018年度、そこから少し離れた小学校の廃校舎が「みの木工工房FUKUBE」として生まれ変わりました。私たちが活動する第2の拠点です。ここでは雨天や猛暑など、天候に左右されずに安心してプログラムを実施することができます。

2019年度からは新たに、ろうきんの森の整備が始まります。伐採した木はもちろん生のままグリーンウッドワークの材料として使いますが、乾燥した材も新たな木工房で加工し利用していきます。身近な森から出された木材を地域の子ども達に使ってもらう仕組みをつくっていきたいと考えています。

小学校の廃校舎を利用したみの木工工房 FUKUBE

HIROSHIMA

広島地区

地域と地球に寄り添う自然体験・環境教育活動を

ひろしま自然学校
志賀 代表理事

2018年度は、新たなプログラムへの挑戦やそのためのフィールド整備を行ってきました。2019年度は、完成したテントサイトや建物を活用したプログラム、地域の人が活きる活動も増やしていきます。

森の妖精くらぶ

3歳～5歳の親子を対象とした年4回の日帰り森のようちえん。親子で森のおさんぽに出かけたり、森での遊びを楽しみながらゆったりした森の時間を過ごしました。

アースキッズ・プロジェクト

2018年度は復活第1回目。参加者の子どもたちの学びに伴い、第2期生スタッフの研修にも熱が入りました。次世代のトレーナーにも期待が高まります。

ろうきん × HIROSHIMA

福屋労働組合新人研修

4月に福屋労働組合新人研修を行いました。1日の研修で、労働組合についての研修に加え、カヌーやハンモックを楽しんだり、森の中でチームビルディングを行いました。

＼広島地区の／

オススメ体験

森の学校フェスティバル

秋の森で家族や友達とカヌーや里山の体験を楽しむ1日イベントです。

アースキッズ・プロジェクト

3ヶ月間かけて地球と向き合い、自分の行動を見直す環境教育プログラムです。

きたひろごはん

北広島町の食材を使って料理を楽しみながら、食を通した“環境”を考えていきます。

Column

西日本豪雨災害での支援活動

2018年7月の豪雨で西日本の広範囲に災害が起き、広島県内も多くのボランティアセンター（以下VCと略）が立ち上がりました。そんな中、ひろしま自然学校は広島市安佐北区VCの支援活動に約1ヶ月従事しました。安佐北区は5年前の豪雨災害でも大きな被害が出た地域です。各地域では、5年前の教訓を活かし地域ごとに住民主体のVCが立ち上がり、地区社協や自治会を中心にVCを運営するという新しい形のVC運営が行われました。

このような住民主体・地域主体のVCの運営は、今後広域災害が発生した際の手法として大いに参考にすべき形だと感じました。地元住民や地区組織と地域に密着したNPOが協働でVC運営をする新たな災害対応のあり方について学んだ支援活動となりました。

ボランティアセンターでの活動の様子

暮らしとのつながりを体感できる森づくり活動を

桑取谷の里山には、豊かな自然との共存で得た知恵や技がいっぱい詰まっています。森での活動を通じて、皆さんと一緒に暮らしの原点を見つめ、考えながら、「未来へつながる森づくり」を思い切り楽しみたいと思います！

かみえちご山里ファン倶楽部
理事長　石川正一

新潟地区

ろうきん森の学校新潟地区として新たに参加した「かみえちご山里ファン倶楽部」。源流から日本海まで広大な市域を持つ上越市西部中山間地域に拠点を置く、NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部の石川理事長にお話を伺いました。

かみえちご山里ファン倶楽部とは

かみえちご山里ファン倶楽部（以下、かみえちご）は、「山里の自然、景観、文化、地域の農林水産業を『守る、深める、創造する』」という基本理念のもと、地元住民が中心となって2001年9月に設立した地域づくり団体です。2002年2月にはNPO法人格を取得しました。

運営スタッフは主に県外出身者が担い、「くわどり市民の森」と「地球環境学校」というふたつの施設の管理運営をメインに、地域の方々との交流から学んだ里山の暮らしに関わるさまざまな知恵・技術を各種プログラム作りに反映させています。会員は約280名で、地域内・市内・県内外の方が各3割程度となっています。近年は、味噌や梅干し、甘酒などの農産物加工品販売や古民家カフェの運営など、地域資源と産業を結びつける取り組みにも力を入れています。

行政に頼るだけではなく、自分たちの力で

私は中ノ俣という小さな集落で暮らしていますが、以前から集落存続のためにできることを考え、有志と山菜祭りなどの活動を続けてきました。かみえちごの立ち上げ時には、桑取・谷浜・中ノ俣・正善寺地区という広域的な枠組みの中での話し合いが行われましたが、その際に「外との接点がないこの集落は、何も発信しないと忘れ去られる。行政に頼るだけではなく、自分たちの力で動いてみよう。」と思い、かみえちごの理事として関わることになりました。

中ノ俣にある環境教育施設「地球環境学校」にはかみえちごのスタッフが常駐し、地域の拠り所になっています。2019年度、長年ご尽力いただいた和瀬田前理事長から理事長職を引き継ぎました。

交流人口・関係人口を増やしていきたい

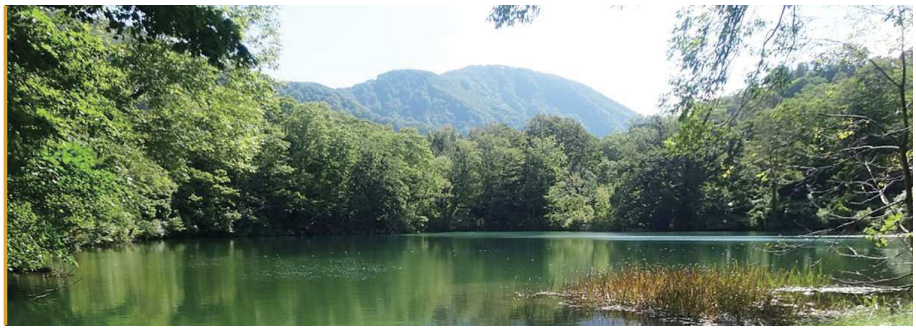
豊かな自然・資源とそこに暮らす人々はこの地域の財産です。それらと地域内外の人をつなぐ「場づくり」こそが、新潟地区における重要な役割であると感じています。今後計画している体験活動には、地域・市内の人のみならず、県内外からも広くご参加いただき、「この地域・この仲間と関わることができてうれしい・楽しい！」と思ってもらうことで交流人口・関係人口を増やしていきたいです。

また、少子高齢化は免れない地域ですが、活動を通じて地域の人や子どもたちがこの地の豊かさを再認識し、誇りを持って情報発信できるよう、小中学校のクラブ

NIIGATA

新潟地区のメインフィールド

くわどり市民の森エリア



「上越市くわどり市民の森」は上越市西部に位置する自然公園です。地元スギ材を利用した管理棟やブナ林の散策道、湧き水をたたえる池沼などがあり、また一部は上越市の水道水源保護地域に指定されています。当団体では、指定管理者として施設管理を行うとともに、「水源の森」の役割や森と私たちの生活との関わりなどを考えるさまざまな体験プログラムを実施しています。

活動や総合学習と連携した活動も行っていきます。

活動する上での課題と2019年度の目標

新潟地区での活動は始まったばかりなので、「認知度アップと仲間づくり」が2019年度の目標ですね。まずは多くの方に全国および新潟地区の「ろうきん森の学校」の活動をご理解いただけるよう、広報用ウェブサイトの整備や会報等でのPRを進めたいと思います。

また各種体験プログラムや里山林の整備活動を通じて、継続的に活動に関わってくれるサポーターを徐々に増やし、運営スタッフや地域の方々との交流の中から今後の活動へのヒントが生まれればいいな、と考えています。冬は多くの雪が積もるのでフィールドが限定されてしまうのが課題ですが、木工やわら細工等のものづくり活動とあわせて、雪上散策など冬ならではのプログラムも組み入れていきたいです。

これから参加してみようと思っている方へ

秋には本格的に森づくり・ものづくり活動を始め、体験会も予定しています。下草刈りなどの作業とともに、自然観察やクラフト、旬の食材を使ったアウトドア料理など、家族や仲間で楽しめる活動を計画しています。

他にも棚田での取り組み、わら細工体験など、山里地域ならではのさまざまな活動を行っていますので、ぜひお気軽にご参加いただければと思います。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

新潟県上越市はこんなとこ！

上越市は新潟県の南西部に位置し、東京からは北陸新幹線でおよそおよそ2時間弱でアクセスできます。高田公園の桜は「日本三大夜桜」に数えられ、夏には蓮が堀を埋め尽くします。上越市ゆかりの名将・上杉謙信公を偲ぶ「謙信公祭」、日本スキー発祥の地・金谷山、昨年オープンした水族博物館「うみがたり」など見どころ満載です。海と山に囲まれた食の豊かさはもちろん、その地勢と豪雪地の気候風土を活かした「発酵」の技術が受け継がれ、おいしい日本酒や味噌、醤油などの発酵食品も数多く製造されています。

森づくり・ものづくり活動

里山林の下草刈りや枝払いを行うと、春には一面のカタクリ畑が！　整備で得た材は薪やきのこのホダ木として活用します。また森の手入れと合わせて、食材の採取や料理、ものづくりなどを行う体験会を予定しています。

森と棚田の保全活動

年間を通じて耕作技術や森を含む周辺環境の保全に必要な知恵・技を学ぶ「棚田学校」では、地域の方々や仲間とともに用水清掃やハサ木づくりなども行い、田植え・稲刈りだけではない「棚田ライフ」を満喫できます。

夏のふるさと探検

森あそびや自然散策、工作、調理などを通じて、ふるさとへの愛着や自主・自立性を育む体験活動です。日帰りですが、森での発見とお楽しみの連続に子どもたちの目が輝きを増します！

INTERVIEW 外から見た「ろうきん森の学校」

これからの生き方・働き方を考える

ろうきん森の学校 15 周年記念イベントのゲスト、信岡良亮さんに、これからの時代の人づくり・地域づくりについて話を伺いました。

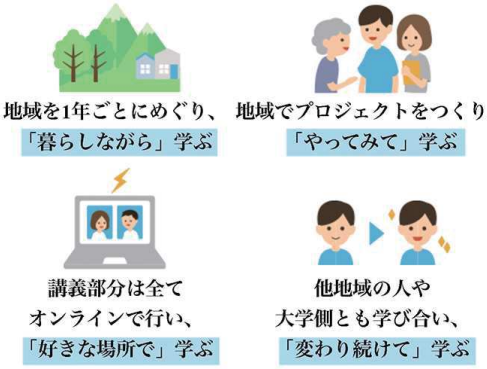
株式会社アスノオト代表・さとのば大学構想発起人

信岡 良亮 氏

ろうきん森の学校がスタートして15年。参加者・スタッフと立場は違えども、里山に関わることで様々な影響を受けたことは間違いないのではと確信しています。
奇しくも「里山」を新たな学びの場として活用しようとするプロジェクト「さとのば大学」を知り、発起人である、信岡良亮さんとつながることができました。
ろうきん森の学校15周年記念イベントのゲストとして迎えるに当たり、信岡さんにお話を伺いました。

―開校を目指している「さとのば大学」とはどのような学びの場ですか？

「地域を旅する大学」というコンセプトのもと、活動性の高い地域に長期間留学してその地域社会をさらに良くするために必要なプロジェクトに参画してもらうという、現実のプロジェクトから学ぶ大学です。さらに午前中は、提携している複数の地域に散った学生がオンライン上で一斉に全国から繋いで学び、午後は、地域ごとに、現地でプロジェクトを実行するという仕組みです。オンラインとオフラインのハイブリッド型の学びを提供します。



さとのば大学の特徴

―「さとのば大学」の目指す未来とはどのようなものでしょうか？

日本中が「学習するコミュニティ」になる世界がいいなと思っています。学習するコミュニティ＝未来への自治率を自分たちで高められる仲間、という風に訳しています。自分のキャリアをただ個人としての自立のためだけでなく、自分にとって大切なコミュニティや、地域社会などまで含めて「ほしい未来」というのがひとり一人にあるのだと思っていて、それを仲間と共に創造していける共創関係で溢れる未来です。

―これからの生き方・働き方で大切にしたいことはどんなことでしょうか？

変化を前提として生きていくということでしょうか。自身も周りも含めていろんな挑戦が必要になってきますが、挑戦することは確かにリスクがあると思います。

しかし「変化しないリスク」が最も大きく、失敗しないことは不可能なので、より早くより価値ある失敗をして、少しでも変化への耐性をつけるための学習を何度も繰り返していくのが大切だと思っています。楽しく実験的に生きる、ような感覚です。

働き方や生き方が多様化し、「会社に捧げる」人生ではなく、「自分らしく生きる」人生を選択することができる時代。

盲目的に働くのではなく、自ら学び、人の考えに触れ、仲間と共に自分が信じる価値を形にしていくことができる時代です。

そんな時代に「自分らしく生き抜く力」を養うことができる可能性を、さとのば大学には感じました。

インタビュアー
富士山地区・壽榮松孝介

ろうきん森の学校 15周年記念イベント

2020年 2/16日 13:00～16:30

森のそばで「自分として生きる」こと

～ろうきん森の学校 15年の歩みとこれから～

ろうきん森の学校の活動を、所属NPOスタッフの「生き方」「働き方」という切り口で捉え、これまでの活動から生まれた価値を見つめ直します。また、ゲストとのトーク＆ワークを通して、参加者自身の「生き方」や「働き方」と向き合う時間を提供します。この機会を通じて、ろうきん森の学校が掲げる「森づくりからはじまる地域づくり」に参画する、新たなパートナーの掘り起しを目指します。

信岡 良亮（のぶおか りょうすけ）

1982年生まれ。関西で生まれ育ち同志社大学卒業後、東京でITベンチャー企業に就職。ウェブのディレクターとして働きながら、大きすぎる経済成長の先に幸せがあるイメージが湧かなくなり、2007年に退社。島根県隠岐諸島海士町という人口2,400人弱の島に移住し、2008年に株式会社巡の環を仲間と共に起業。6年半の島生活を経て東京に活動拠点を移し、2015年に株式会社アスノオトを創業。「地域共創カレッジ」主催のほか、さとのば大学の発起人。

井東 敬子（いとう けいこ）

旅行会社・国際協力NGO、ホールアース自然学校職員を経て、2006年にリードクライム株式会社を起業。田舎で子育てをするために2011年、山形県鶴岡市に移住。2015年に鶴岡ナリワイプロジェクト設立。好きなことで誰かの役に立つ”小さなソーシャルビジネス”ナリワイ企業を普及している。現在、ナリワイ起業講座は、7期目を実施、卒業生約60名。活動は山形県内、宮城、新潟、岐阜にも広がり、2019年「わたしごとJAPAN」設立。共同代表を務める。

日時 2020年2月16日(日) 13:00～16:30

場所 アーツ千代田 3331（東京都千代田区外神田6丁目11－14）

定員 60名

料金 無料

内容（予定）

1. リレートーク　『森づくりのそばにある「生き方」「働き方」』
2. ゲストトーク①「自分として生きる」ための学びとは（信岡良亮氏）
3. ゲストトーク②「自分として生きる」ためのナリワイづくり（井東敬子氏）
4. 対談＆フロアディスカッション「自分らしく生きる術を考える」

詳細は2019年秋頃、ろうきん森の学校ウェブサイトにて公開予定

ABOUT ろうきん森の学校とは

森を育てるような長期的視点で人材を育成することを目的とした環境教育事業

ろうきん森の学校は、2005年から2024年まで20年間にわたって取り組む、労働金庫連合会と全国5つのNPOによる環境教育事業です。2018年度はのべ17,102人が参加し、累計参加者数は18万人を超えました。2019年度より新潟地区の現地事務局が「かみえちご山里ファン倶楽部」に替わりました。引き続き活動の定着と拡大に取り組みます。

豊かな里山の再生

荒廃した里山の整備を通じて、生物多様性を取り戻し、地域の自然を再生。

人材の育成

安全で楽しいプログラムを提供するため、環境教育的視点を持った人材を育成。

自然体験プログラムの実施

里山を活かした自然体験プログラムを通じて、健康維持と精神的な安らぎを提供。

ろうきん関係者への研修実施

ろうきん関係者の参加を通じて、環境意識の醸成とコミュニケーションの促進を図る。

FIELD 現地事務局情報

本誌で掲載している体験の詳細は、下記の各拠点へお問い合わせください。

福島地区

NPO法人 **いわきの森に親しむ会**
〒972-8326
福島県いわき市常磐藤原町湯ノ岳2湯ノ岳山荘内

Tel. 0246-44-3273
Fax. 0246-44-3273
Mail yunodake@gray.plala.or.jp
Web iwaki-mori.jimdo.com/

新潟地区

NPO法人 **かみえちご山里ファン倶楽部**
〒949-1734
新潟県上越市大字増沢962番地1

Tel. 025-541-2602
Fax. 025-512-1379
Mail kamiechigo@nifty.com
Web kamiechigo.jp/

富士山地区

NPO法人 **ホールアース研究所**
〒419-0305
静岡県富士宮市下柚野165

Tel. 0544-66-0790
Fax. 0544-67-0567
Mail forest@wens.gr.jp
Web wens.gr.jp/

岐阜地区

NPO法人 **グリーンウッドワーク協会**
〒501-3701
岐阜県美濃市2973番地1

Tel. 090-4793-9508
Mail greenwoodworker@gmail.com
Web www.greenwoodwork.jp/

広島地区

NPO法人 **ひろしま自然学校**
〒733-0012
広島市西区中広町2丁目24-5-302

Tel. 082-208-4146
Fax. 050-1029-6367
Mail nkk5408@gmail.com
Web moricafe.sakura.ne.jp/

この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」が推奨する事業として認定を受けています。

INFORMATION

「ろうきん森の学校」に関するお問い合わせは全国事務局（ホールアース研究所）**まで**

forest@wens.gr.jp

ろうきん森の学校 検索
www.mori-gakko.net

ろうきん 森の学校

「ろうきん」の活動に関するお問い合わせはこちら

労働金庫連合会 総合企画部
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5-15

Tel. 03-3295-9332 / **Fax.** 03-3295-9328
Mail rokinren_mori@rokinbank.or.jp
Web www.rokinren.com/csr/